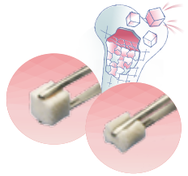
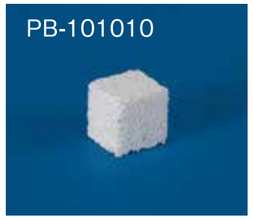
Collagen Hybrid

ReFit リフィット®



製品一覧



形　状	品　番	寸　法	包装単位/箱	区分名略称
ブロック	PB-101010	10×10×10 mm	1個(1.0mL)	人工骨:AB-06-2
	PB-103020	10×30×20 mm	1個(6.0mL)	

PENTAX

製造販売業者

HOYA Technosurgical 株式会社

〒160-0004 東京都新宿区四谷4-28-4

TEL 03-5369-1710 FAX 03-5369-1711

■札幌オフィス　〒060-0007　札幌市中央区北七条西13-9-1　TEL:011-241-3473　FAX:011-241-3472

■仙台オフィス　〒981-3133　仙台市泉区泉中央1-7-1　TEL:022-371-6944　FAX:022-371-8924

■名古屋オフィス 〒461-0001　名古屋市東区泉1-21-27　TEL:052-955-8572　FAX:052-955-8573

■大阪オフィス　〒542-0081　大阪市中央区南船場1-17-9　TEL:06-6263-1679　FAX:06-6263-1686

■福岡オフィス　〒810-0802　福岡市博多区中洲中島町3-8　TEL:092-281-6860　FAX:092-281-6869

URL www.hoyatechnosurgical.co.jp

ご注文先

益子工場

〒321-4292　栃木県芳賀郡益子町大字塙858

TEL 0285-72-6253　FAX 0285-72-6259

RF102502

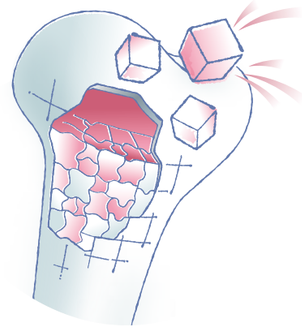
HOYA TECHNOSURGICAL

医療機器承認番号
22400BZX00222000
滅菌済
単回使用

医療用品4. 整形用品　高度管理医療機器　コラーゲン使用人工骨　クラスIV

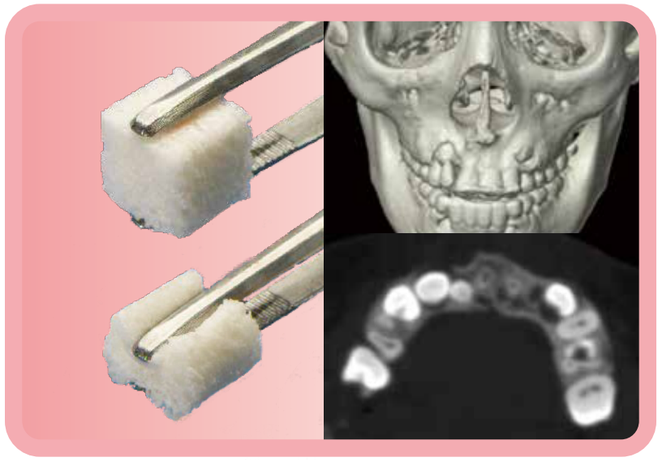
Collagen Hybrid

ReFit リフィット®



臨床ケースレポート

資料提供:慶應義塾大学病院　形成外科
坂本　好昭　先生



症例 1

片側唇顎裂

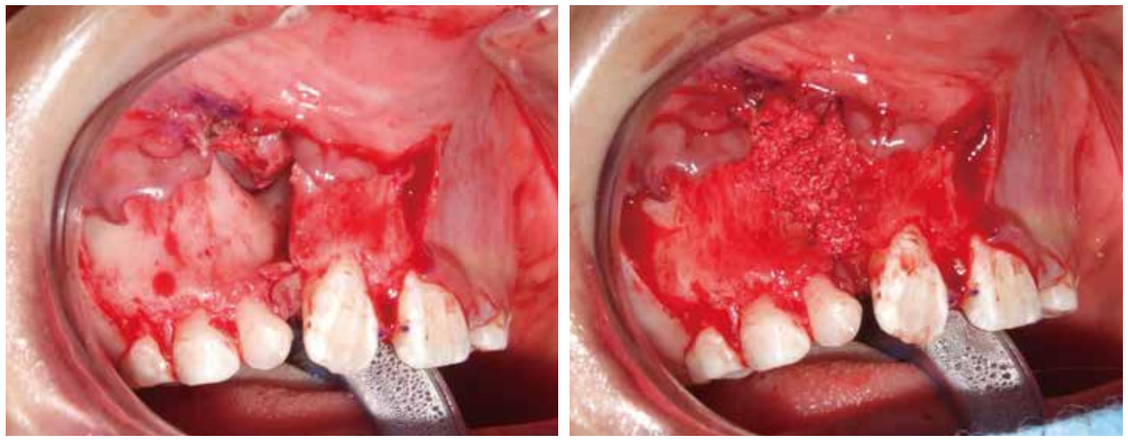
（小児／男児）

術式

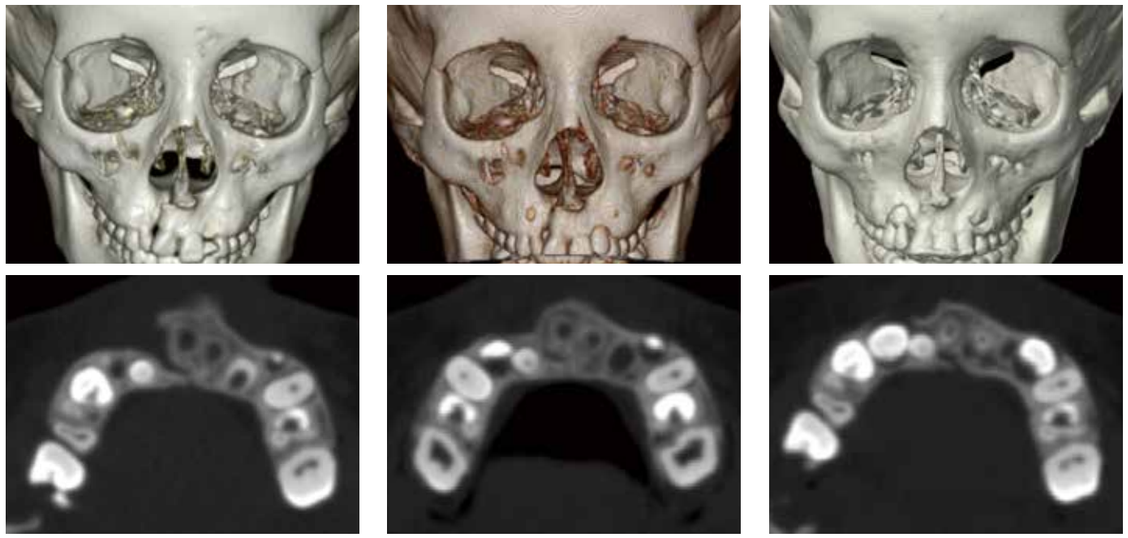
片側顎裂に対し、まず局麻後scarに歯間乳頭部分を切開し骨膜下にて挙上し、顎裂部は辺縁にて切開をした。その後、口蓋側粘膜を挙上し、4-0vicrylにて縫合し、顎裂部辺縁骨をノミにて傷を多数つけて出血させ、同部に生理食塩水を含侵させたリフィット1.0mlを単独補填した。補填後、創部を4-0vicrylにて閉創し、手術を終了した。術後、骨量の増加と骨架橋が確認でき、18ヶ月では骨形成が完了していた。

〈顎裂症例で使用する場合のポイント〉

- 本症例は積極的に顎裂部の骨に傷をつけて出血をさせた。
- 歯根は損傷しないように注意する。
- 口蓋側をいかに閉創するかが重要である。



術中写真



術前　術後6ヶ月　術後18ヶ月

CT画像

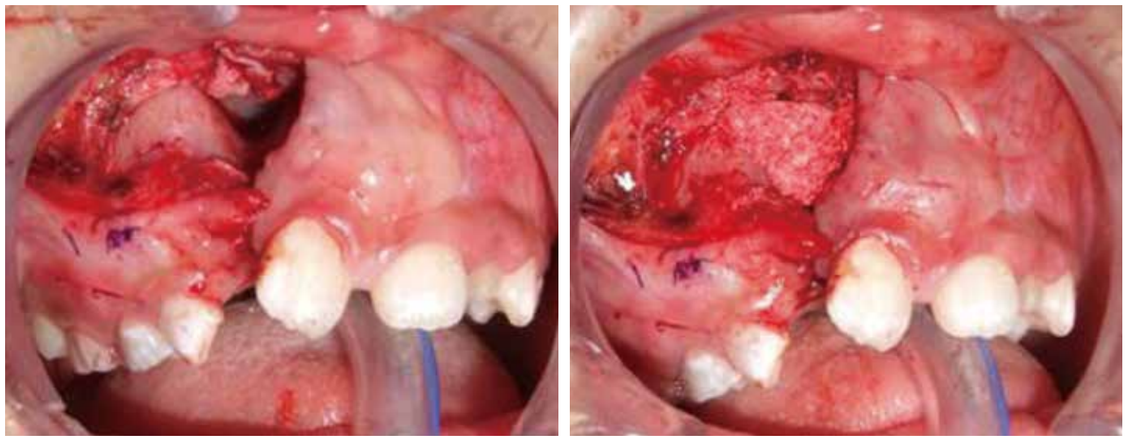
症例 2

片側唇顎裂

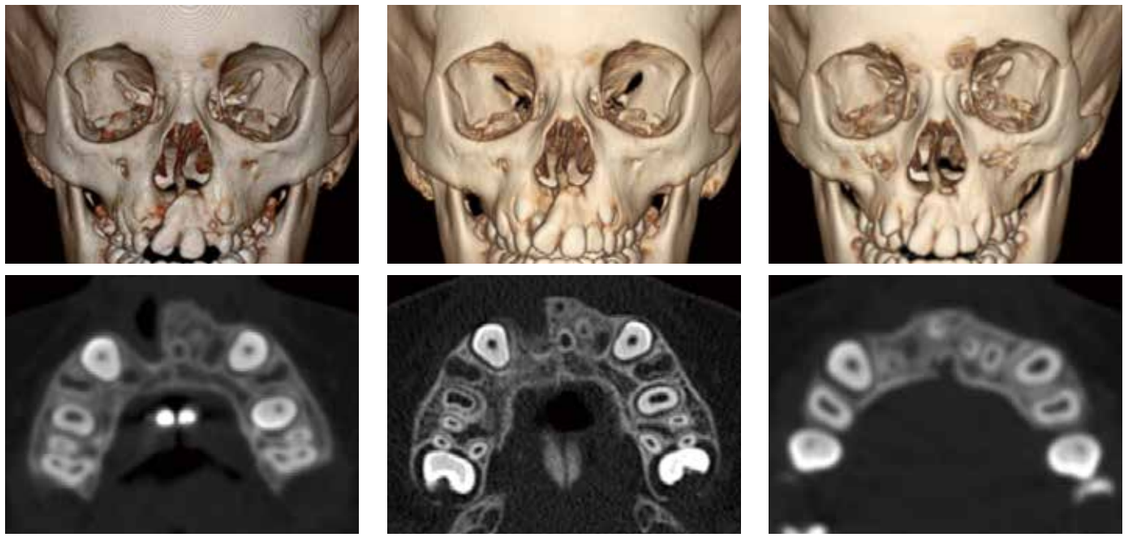
（小児／男児）

術式

裂幅は比較的広く鼻腔底にて1cmほどの片側顎裂に対し、被裂縁に沿って切開を加え、骨膜下にて剥離を施行した。一次口蓋断端まで剥離を加えた後に、鼻腔側骨膜を5-0PDSにて縫合した。口蓋側は逆に粘膜肥厚に伴い、剥離によるflap挙上が困難であったため、左側をdenudeし、右側のみflapを挙上する形として4-0vicrylにて閉創を行った。ポケット作成後、同部にリフィット約1.3mLを単独補填し、創部を4-0vicrylにて閉創し、手術を終了した。術後、骨量の増加と骨架橋が確認でき、14ヶ月では骨形成が完了していた。



術中写真



術前　術直後　術後14ヶ月

CT画像